
東方珈琲館

Circlecafe

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方珈琲館

【Nコード】

N62990

【作者名】

Circlecave

【あらすじ】

東方の二次創作の小説になります。
ショート形式でいろいろなキャラクターを描いて行きます。
初回はレミリアの話。

レミリア・スカーレット part 1

> i 1 3 4 1 9 — 1 8 7 9 <

古い館の壁は分厚く　そして頑強だった

背中を強く打ち付けられて悶絶する感覚等久方ぶりだ。

「フラン…」

「お姉さま」

どうしてこんな対峙をしているのかしら。
愛する妹があんなにも怒っている。

「どうして　ふつうにくらせるの?」

衣服も纏わず、七色の羽を逆立てながら近づいてくる。

「げほっ…もうどうでもいいのよ」

床に吐いたのは私の血液。

血液。

いつからだろう　血液を口にするのを控えはじめたのは…

「フラン…あなたは…っっ!」

また腹を打たれた。

加減してるのかもしれない。

まさかこの子が加減なんて…　姉だから?

「フラン…遊んであげるわ」

黒い羽をレミリアは広げる。

吸血鬼の戦いは美しい。

夜天に以上に映える。

「お姉さま…本気出さないの？」
プライドに傷がつく。

妹とて愚弄するのは許せぬ。

レミリアの手元に紅い光が集まる。

「ふふ… あ…」

その光は…静かに小さな粒子に変わり
放たれること無く消失していく。

「どうして どうして…！」

「あなたには力技で充分よ」
この程度の間合いは一瞬で詰められる。

レミリアの小さな拳がフランドールの顎を捉える。

「ばかあああああああ」

吹き飛ばされた軌道そのままに戻る七色の羽。

チリ…

それが頬に触れた気がした。

「はぁ……」

再生した体を瓦礫から起こす事も無く、レミリアは空を見上げた。
少し意識を失っていたのか。

「お嬢様、もうすぐ日が昇ります」

「咲夜……」

紫色になりだすこの時間。

東側を背にレミリアに手を差し出す咲夜。

「咲夜……　なんでもないわ」

そう聞きかけたこと……

レミリアは咲夜の手をとり、真っ直ぐに立ち上がる。

「さ……もう時間です　部屋へお戻りください」

小鳥のさえずりが聞こえる。

少しだけ不快な気分になる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6299o/>

東方珈琲館

2010年11月1日02時28分発行